

【2025 SyDE 海外研修 実施報告】 2025.9.1~2025.11.28

2025年9月1日から11月28日までの約3か月間、海外研修としてタイ・バンコクにある国連アジア太平洋経済社会委員会（United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific：ESCAP）にてインターンシップに参加しました。本研修は、ESCAPの Information and Communications Technology and Disaster Risk Reduction Division 内にある Space Applications Section において実施され、衛星観測データをはじめとする地理空間情報技術を活用した、アジア太平洋地域の防災に資する調査・業務に携わりました。研修期間中は、文献調査に加え、地域内ワークショップや政府間会合の開催支援など、幅広い業務を経験しました。

国際機関の業務は、国連総会のような大規模な国際会議の調整役というイメージを持たれがちですが、実際には多国間協議を支える基盤として、各国人材のキャパシティ・ビルディングを目的とした地域ワークショップの実施や、政策形成の基礎となる課題研究など、多様な活動が行われています。本研修を通じて、そうした国際協力の実務の一端を現場で学ぶことができました。

博士課程の学生として、研修期間中は自身の専門分野である火山学の知見を地域防災に活かし、アカデミアと行政をつなぐ役割を意識して取り組みました。その成果として、ESCAPのワーキングペーパーにおいて火山防災に資するアプリケーションの提案を行ったほか、PhilGEOS 2025 に関連して実施された事前トレーニングセッションでの発表や、11月に開催された Committee on Disaster Risk Reduction の関連イベントにおける発表など、多岐にわたる実務経験を積むことができました。

3か月という国連インターンとしては比較的短い期間ではありましたが、Space Applications Section のスタッフの皆様の支援のもと、国際社会の現場を肌で感じるとともに、博士人材として国際機関で求められる役割や視点について深く考える貴重な機会となりました。

本研修の実施にあたり、多大なご助言を賜った東北大学災害科学国際研究所の小野裕一教授、ならびに ESCAP において日々の業務を支えてくださった Keran Wang 氏、Kareff Rafisura 氏、Sheryl Rose Reyes 博士に、心より御礼申し上げます。また本研修の一部は、東北大学変動地球共生学卓越大学院プログラムの支援を受けて実施されました。

浮田泰成（理学研究科・地学専攻・D2）



SyDE

WISE Program for
Sustainability in the
Dynamic Earth



ESCAP 事務局に隣接する United Nations Conference Center にて、Space Applications Section の Sheryl Rose Reyes 博士(写真右)、Haiqi Du 氏(写真左)と共に



Committee on Disaster Risk Reduction 9th Session に合わせて開催されたワークショップ “Regional Workshop on Multi Hazard Risk Assessment for Risk Reduction and Planning” における発表の様子